

山岳寺院 松尾寺跡

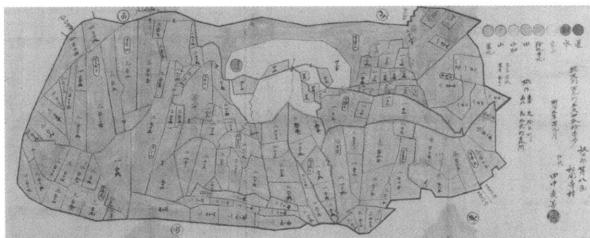
靈仙山にあったとされる「靈山寺」の歴史や内容については、これまで嘉吉元年(1441)作成の『興福寺官務牒疏』により述べられてきました。そこには、近江坂田郡丹生郷に寺院関係者29人で構成される大寺院靈山寺があり、天智天皇の時代に役行者が入山し、養老元年(717)越の泰澄が本尊などを安置。神護景雲3年(769)に、法相宗の僧宣教が山麓に松尾寺など七ヶ別院を建立。弘仁2年(811)に願安が再興したと記録されています。しかし、この『官務牒疏』は後年に製作された偽文書の可能性が高く、靈仙山の歴史や性格を示唆する材料を含む資料ではあるものの、取り扱いに注意を要します。

松尾寺は松尾山の東南山腹標高420m地点にあり、元慶年間(877~884)に、役行者を慕う伊吹山寺の松尾童子が寺の興隆に尽力したとされています。戦国時代に一時焼失したものの、江戸時代には本坊のほかに50余りの坊院がありました。平成3年からおこなわれた測量調査では、尾根上とその側面に大小60近くの削平地が星形に展開することが確認されました。また、発掘調査では、本堂跡周辺の整地土層から、松尾童子による堂宇の整備時期の9世紀後半から10世紀中頃の土器片が出土しました。また、尾根筋の坊院跡からは、戦国時代以降の遺構が検出されており、近世の遺物の量が増加することから、このころ周辺の坊院が形成されたものと考えられています。

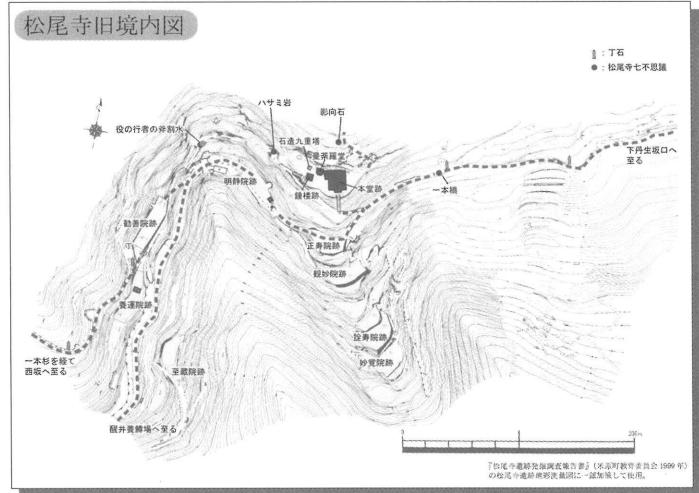




松尾寺本堂古写真
(五六豪雪で倒壊)



「松尾寺村地券取調絵図」



「伝記今道筋及参詣道案内図」(米原町教育委員会 1999年)
の松尾寺地図を基に、地図を複数枚に分けて使用。



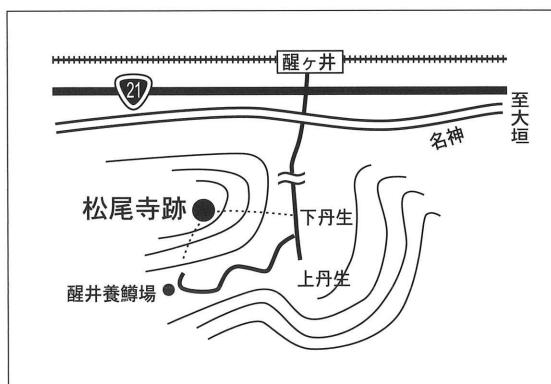
石造九重塔（重要文化財）

発掘調査では、中世の陶器の数は少なかつたものの、文永7年(1270)の年号を刻んだ石造九重塔があることから、宗教活動は継続していたと思われます。基礎から相輪部まで当初の部材が残っており、高さ5.11mを測ります。近江を代表する石塔のひとつです。



● 丁石道

丁石は寺院の参詣道に建てられた距離を示す石柱です。松尾寺では、下丹生の坂口から登る参詣道と、西麓にある西坂からの参詣道に建てられています。下丹生側のものは中世的なものと近代のものがあり、参詣口を起点に、境内の一本橋のたもとに十二丁石があります。西坂側は中世末～近世初頭頃のものとみられ、勸善院門前が最終となります。



松尾寺跡

■ 所在地 滋賀県米原市上丹生

■ アクセス JR東海道線醒井駅下車、湖国バスで「坂口」又は「醒井養鱒場」下車。徒歩約45分。

米原市教育委員会

滋賀県米原市顔戸281-1 近江はにわ館内
TEL.0749-52-8025 FAX.0749-52-8177

平成22年度 埋蔵文化財活用事業